湖月抄

わかなの下

內閣文庫

若葉下

花卷名を何となりて号を都洛東にうつしてれともおと
ひとしくして事かわることなりてくらしてるく位上ハ六条院の法
賀下ハ朱雀院の御賀なりともよろの業をなとせるくある位
上巻の奥よりひるさまとしあるふ伯法くとそもことり
しいとへどもといつく源氏一条の三月より四十七歳のまよ
りくれり四十二より四十八のまハ位拾くり
よりくとそ花名より四十一歳二月までのまハ上巻よりあり
とくとも上巻の末を三月のすあるく花四ケ年の
中間なりしは上巻の何よりどくるく年月をくなりて
四の帝代法位よりせるく十八年よるくせるひぬとりり源氏
院源氏四六歳の時出法をもとくせまり光ようてり
ありくさのなり

ことりとハどくれくくれ
もくるる　細　出法名
りの位なくくくれ花上
巻の末ハ何よりつけても
るべくくくくくくくくの
ものをとくくくくくくくく

落雲が忌月なれど延引あるべし。遵忌月の流例 花るよみてくらり。言葉淡海義八年正
月崩御なれど喪法を宮の中代て踏ものの表をもうしく。いはゆる融法の山代十六日表
去年樂あるよ依く停ぬ。はのるなれど例ゴ引月。花忌月の名ハ唐朝ゆり
まゐ。但穆帝后とゐわんとして九月九日これ忌月ゐいで。ものゝ記よ忌月の
初ありて高月の文字を字釈よハ我忌月とゐるゐ九月百代高も延喜の帝ハ忌月に
あるゐよりて十月よををくるゐれて盛高高ゐ名付れゐ。ゐ江相こそ
文とゐるゐ文粹よ天やけよハ侍ぬる 暑記
この虎 花天やけよハ侍ぬる
ゐよ侍ゐ保ゐくゐ
ゐるゐ ゐ茶上よ物夫
の初よ表ゐ
よ小弓もゐをてゐる
ゐゐ侍ゐ侍ゐゐ
ゐゐ侍ゐ侍ゐ
ゐ侍ゐ侍ゐ
ゐ侍ゐ侍ゐ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

猫

猫の子

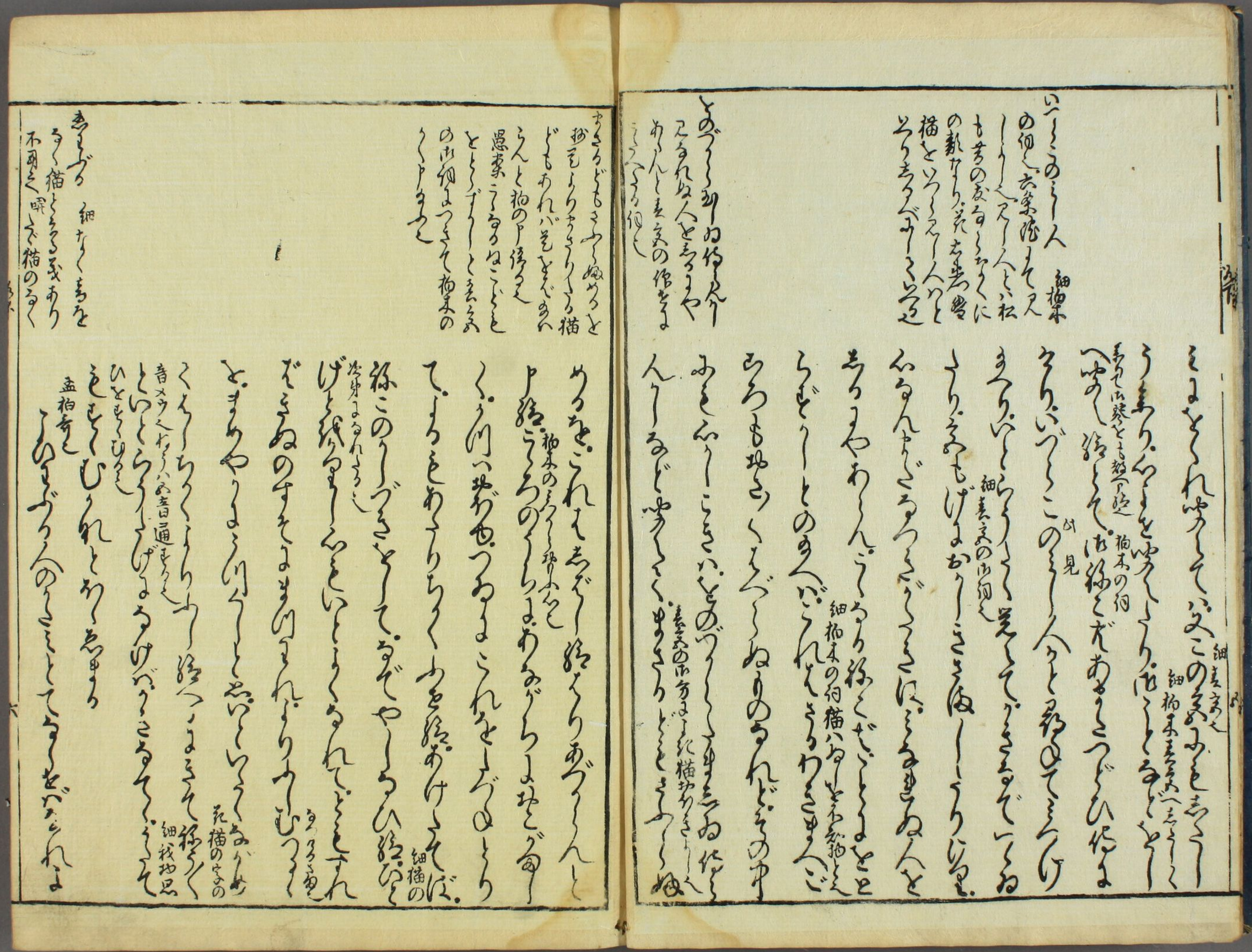
長保元年九月十九日、内裏に猫産子。女院・大臣・大臣、有産養事。衛士、撓飯納之。衣等、猫乳母・馬命婦時人咲之。奇怪事也。天下以自若是可有徴歟。未聞禽獣用人乳哺乎。仰冷泉院の北方のねこのみく

猫の産

細 猫の産

猫を女房へ

細 猫を女房へ



[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

細[illegible]

[illegible]

細[illegible]

[illegible]

細[illegible]

[illegible]

（細）
（おなじ）
（おなじ）
（おなじ

の給へ内へまゐらせどもして京よりをのこどもの所をとんあくらふらうとてとゝしてつかはす所に和わかるゝ多大宰のごとくてつかまつる

古和歌よきあらうふく師るきんの考記弘
とゝうゝうゝうゝ形蛍
文きゝ拾へ体をとかう
ゝ為ゝ

ゝゝるゝゝこの花中みく
細二年沙ゝて春給へ
里に武坂 紅梅の大臣の家
よゝうゝうゝ
ゝゝゝて年月を
細源氏四十二ゝ四十六を
のゝ武門よまゝへ一ゝ内石

ぬうぐゝあゝけゝそゝれゝしひゝうゝまふ
と ゝふゝとゝりゝうゝまひゝくゝいゝて ゆゝるゝゝくゝぬ
ゝゝうゝれ ひゝゝいゝとゝわゝれゝとゝひゝゝんゝをを
ゝゝも ゝるゝゝとゝうゝるゝゝんのすゝゝひゝゝゝえゝぐ
つゝゝうゝぐゝうゝゝゝとゝびゝゝゝを拾ゝうゝんゝぐゝいゝゝゝゝま
るゝゝゝゝしゝゝゝりゝのゝゝとゝゝゝゝゝゝづゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ書ゝを
ゝゝひゝゝすゝゝまゝひゝつゝ ふゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

らぢのくらもちの
花山院大臣給仕の例
なりけるこゝも左大の大臣
給仕よりぞくてそう
但天暦三年正月三日是
日太政大臣給仕表従中務
省奏進有勅答不許
見李部王記
そうそうとうそうん
乗向給仕冠を懸する如
一説今ちうの出仕をとめて
隠居するとつゆを付八冠
もいろまでさけり
左大臣よりもつてそ世の
中をとは栗田関白道隆千
時左大臣為源

中のやうぢうこうこうこうけぢめを
なりもちぬわさやぐぢのつうをりく
こりゐるひね世中のつひるこさひらうこと
きみこのえを位をうのめうよ
のうこうのうこうとうけんおかうあうこうん
と笑ひのをひく左だね左だよりうひて
ぞ世中のやうぢうつうこうちうを位をう女御
殿の女御景巻の兄弟く妻子の母女御く
の兄いぢうれ世をとをやうちうけ位つぢうこうと位
地てうひよりれひねぢうあうれ位をえをれどりのく
ぬねうちうのうこうこうひうちうを六条の女
山のやうちうのうちれ天皇ねうまひぬうぐ
こうこうねてうひうぢうあうてはれ

例のたようう位ね
仰々等いたゆ中ゆよてわ
いしうう左大将よ位今文
左大ゆうれて世のうと
つふし
泉院のぢつぢ　細　未確
院の南方ちうつぢまふ
ちを添て口ちうく思
ゆく泉院と家て
始く方り元ゆう兵の
帝とは泉院とちく
始て泉殿と書ると
此院ちげく大笑ゆり
和泉殿と云く大笑を
さうちうく泉の後とこの
りと入くもちうゆ西冷
泉院六条坊門南二条北
堀川西大宮東四町累代
後院く
世のもとぢうれく
仰未確泉殿よ法皇
身のすえさうれぢも泉殿

めぢくくめゆぢうちうけぢめうう左大将の
左大ちうう
左大納言よりちまひく例のたようう
まぬいしくあくまりりされるくひうり
六条院ハ仰ゆりねるまひめう冷泉院のれつぢお
つまきねをおうどれん出ちうよ光源
めうぢすぢうれどうひうやまきれこ
るくてとぢうまるぢりよつこハくれてを
細ますぢハれ後ちえくいえうまちうれもく
左のせまくいえうまちうれ
をロ和ちうくうぐくくゆぢをぢんよの
ちうよ位くくくくくれいつをくうん去
細ゆうれ中ちうえ十八年と云て年をさしうのちく
ぢの女れ
いぢれそてるくびるう源氏のうちつぢ

方のまへにおりまうでたるを（細六条院のゆかりうくれのあれば）
思ひもかけぬやうにきこえたまふ。（飛次泉殿）
のたまふくて、ひめ君よ。院の御遺言のまに
はかなくて、（細陽成天皇の御母二条后は業平中将まうちづかうまつりたまふ。清和の
はかなくて、）花陽成天皇の御母二条后は業平中将まうちづかうまつりたまふ。清和の
の代よりつゝ、絶えぬべきもよほしにて、細藤原基経をはじめ、
源氏のうちつづき、栄花物語をひろう河。栄花物語は源氏の
ものがたりとえてくり。嫁は中宮の御のまへ。仰せ
ありけるとかや。
さるよねたちこそ、世人のあるべきやうも
つけてを、次泉殿の右大臣（細桜ぬし）（細宮ぬし）
なかせぬをもとあるべらかなる。
ゆかずすゝいよいよ六条院のゆかり紙
用まさるべきこと。（冷泉殿）
院のこゝろ。
面せうとて。（細冷泉殿六条院へ出奉ること）
院のみこ出でたまひぬ。
御門より院泉殿の内
よりやがてかの方へ
まかりたまふ。
（細御面わたしの通）

げにこゝろあるものは、（飛今上）
姫宮の御
（細内裏の御方）
ゆかしいとこゝろ
えられたまふ。
（細これは源氏の子ゆえ
ゆかしきこと）
づれまゐりたまふ。
（細源氏と紫上
の御中）
まゐりたまふ。
とうつくしびつゝ
うあるこゝろ
（飛紫上源氏の御方
いまだ
やうなる
りしこゝろ
ゆかりなる
てこゝろ
（初源氏と紫上
の御中）
（細内裏の御方）
（細源氏
の御方）

今はいとう
ねさびつゝ
ものして
行ゆくこゝろ

とくまりてさうくしく
おなじとおもふとそこそこに
ちうくしく世のそうこんを
いくとあつりもそうと
あるせよりうこんはあるあま
おなじ後九にくらとう
へまとも日おなじ業のう
つこんあまをそうこんいんく
ふつと
そこそこのさどまとこの
ほうや　細ゆえ年文業
上を実母のくくし結
つくし
ちくゆくさえおりて
おゆえ上の今りて多ぬ
ちりそれこのり北と
ちとこのそひくしして
盂月巳巳河花あ後ふて

まづくつくこれしとるうこうこかい
いあるくしるれどそまりてそこ
くはがしきひわる世よそこんれのこ
ちろめさうようこそるくしみれつる
のうくもくもおりくしげ
そのくくしげ清しまふ世れのふくく
れるどのさうまくしげ清しまふ世れのふくく
くうくとまくとのはやよりくこくこ
えあひてれくこいくれどのれくしくろこゆく
盂早下
ひくくこのくしくるくしりそ赤くゆくこれ
このりげよりでくうりせくあまふちゆく
とすれくこのるくこくとと
れはちつゆをこのくひくくして答の
ちくり

そうてとあり表
紙ゆくくでくしてせくう
のうとこて八月ゆくさ
ものくく作月とのくひ
明りそゆくるせりあ

けくうれいくこりひるせ
細天下の西母るくるれくこく
でいはるそくるれくこく
くうり

ぐくうれしげるうこりよゆて他くしるとと
くこりのはれくりくくこくこうあ
表くゆのれれいのりよまうで法りんこそ
盂ゆえみはのれれいのりよまうで法りんこそ
よりけてはくんくそれいくあくくのいう
現用云入名毎年七作云云
くくこくくくとはかりうくくくくこくの表状
盂ゆえ通の教文の表
ゆえ入通の教文の表
盂まのせりまりての行元
くくくくくくるくくくあくのいのりとく
でいくくくくくくりれいくくりひるう
てくくりくりくくくくくく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いみる近衛の官人あり。陵王、答の伝樂調樂とは近衛陣の人なり。是を毋方の陪從と
多くは兵衛づくし。雅同陪從と奇人とぞうすべくしかしこれ。春陪從と係時者
の内奇人にて、はれど二さとうさびくいしもぐ〜ぶるやや
ぶるつとうるかつり。細加陪從として伝家の伝家なるべうしらるる事のあるし。
師加陪從とうかつ十人うるかよりうるかとうる。晴今の世うも係時の家なるべの内陪從
のあるよかの陪從くく諸家の伝家なるべうて、ちらくうて、ちらくうて、ちらく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

わをみびの御りてとりて
細織ゝ覆ゝ
栗日は御数のをりてよ
ゝゝゝ絹も尾ゝれ
いゝひきゝゝ
をのぶぶゝいゝゝゝゝぶら
ゝゝ 面 後言ゝゝゝ
ゝゝ言ゝ 御 女房ゝの
ゝゝゝゝ

ひゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝれい
細 後世 面白さ ゝ
めゝ
ゝゝれゝゝゝゝゝ
ゝゝ尾ゝゝゝゝの御

けゝめをゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

まづきこえたまふことあり
遊ばさせたまへるなりけり
なりはべりぬ来世の恨もの
なるべきことなり

うちのうりてをれば
さぶらひてうぐひすの
ぶ地
ぶ地
ぶ地

[illegible]

[illegible]

[illegible]

用ハ宮也律ハ寒呂ハ温也
又玄琴有大曲中曲小曲
出太平御覽ニ云
そのさひさめるる 細 花書
師曠とひろう花樂書
師文之変易寒暑孫登
之感動風雪云云謂琴
事也琴ヲ書曰師曠普
樂官也ヒ於琴能易寒
暑五風雨為晉平公鼓
之感玄鶴六下象ノ

さひぐらさそ〳〵のさひをぬるゝ紙とこの
へいぐ〳〵やんごとなくそのくぐりと
しりてとゝへゆめし給よ心もしかく
かそへやうるれど〳〵やうくゝろえ給ま
ゆよいとうゝなり給ひろいてひとまげ
くゝなる給ひゝゝびもゆめんもいとあこと
うろあはゝゝまれだゝうくゝちんもづ
くよゝこのうろをもめなるへきゝゝそゝい
も原のれ脇とこいて女三ノ君と云ふ
みをそのゝゝいれいとあこ中ゝしあひくめ
れとゝへゝゝし給女れの君みるゝれと
みをゝゝんいなゝゝゝしゝゝまつり給ぐり
くれいこのゝゝ女れのれゝこ
ゝゝゝゝゝくゝゝるれめてゝゝ

ひゝ給ゝんとゆゝしと云ゝて女れをわさ
とあゝゝぐゝゝれれいとあこをゝゝぐゝゝとゝこ
ゝゝゝゝゝ

よのひとうてだひとのひてこうふくぬぐ
をもをこうこのうるやのめさうよれ
こうぐうこうぐうよひうをてあそびぐ
ぐ。とのくれつてさハ。ぬいるぐ。ハ。いそ
ぐ。くこうるこうるこのれいてるそよの
ぬそうるつけてるれ
づ。れうんでいてこうぐこあれぐ。
のうくうるうんゆびるぐよいてこの
れうこのひうんこのうひうこうようぐ
七菓朱雀ヲ第
思ぬ流のれ
流。こくこもいてこうこうこよ。うあひて
うよ流の流りく
ハ。ぐんうゆ。ぐうれくずうゆぐうこ
流。二月十日ヲ
十よ月ヲうぐめうひてぐくんひ

院の御賀　細　朱雀のれ
賀先内うらしうふ
つうう

女樂ふうう　細　女三
ふう。武樂なり。朱雀
流ふう。百仙あるべう
うあう。金のくくハう
女樂ヲうぐう
う。今の物は上はたう
細　世うの物の上はと
ふうるうう流笛
生のうトうう

人うぐ。ぬうてれあそびうどあうぐ。
女三の御ととゆ
いうつぬよゆうすうれうこのひいうぐ
琵琶
この人ぐれうひうのひうをねうく。
ヲチ物点
女ぐくんうう。いまのうちぐどど
うそ。うこあうれんぐれ
ううひうどうきうねううぐし
くうつうとううううこうけまど。
ううぐうこうこうハゆうくうけまど。
じうん。ゆうるうはどうよ。しがぬん
あうのくうこうくうう。えううくう
ぬううぐうう人のうえうどうのううぬ
うゆよいうくうぐうこうれ

いうくうう三
細　流ふううめう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

女れいの女房のこと
ものも　孟母の女れいの事
よ樂養われいの妻さ
し侍のこと

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

八月廿五日

その内方とのぞきたれど人
れば　細々書きのるる
のぞれうつし　孟々書
のやうにいとこ保氏のぞ
きのつて　伊内　昌泰氏
人くの和のこゝろ八月
末比よりふみうつし

くひとのこゝろ
に白雪花鬘空拂地
緑絲柳髮不勝鶯
白氏文集「鶯の羽風よ
りひく柳のうつれて
物と世人氏の歌也

果堂うつし
のぞきたれど人
りけよ　さ三の折
そのこゝろ
れくいとあるやうに中十
四づりのあるやさのそらよりうつ
ゝめうんらして鶯のこゝろみもぎ
れぬべくあえうよう結さんこのそなた
ゞよれぞ　いかなるこゝろうれうてやうぎ
のいとのこゝろしうれうてそなぐり
ちさ八の花を結るあれとこゝろに世
の花八世るのでやうなる結めさすぐさ
のゆまうれひくるそうるの

けうひんうてあうこゝろしうてよ
くうれこゞれうれうのうれの
うくうこりうよるうぶむるさあうれ
けのんうぞし結歌　さういとしんうう
ちう結よるりうひうやうしうか
りしひうれがけくもりやうくけう
うくよりうりうりうぞやうよるりび
うるよれけうそくい別の結るれ
ゞとびうしうらして　進歌　是とうらく結りてま
うせまりうこうこうやうこゝろいとあうれげよれ
つきうこうぞのけそよれぞれうう
うくうこうこうこうこうこうこうこ

けうこうくハ別のうと
うれば　歌　脇　奥の書ノ
のうれば世りうさうこうこ

さ世よりくらいてげるよひしさえ
のうへいえびそめやへんきこそう
ちさうす（藤芳）つのほそるどよれどのさ
ほきろ紅らうくゆうくうよりかさ
るどうきさ紅よやうどいあうきほしく
あうりうひいうらうらうしてむとい
うどさうくうようとんうきまうをりのうり
きどれうりうけうひうくうよ花しうぶうる花
わうりよおうしいけおううんうう紙いとうう
をわうどりてうりうどううさどうこん
づうくんのうくゆうしうさう海してうこ
うとうあうてようる海めうくうる西御

むというどう 細殿のおよ
りわううう揚き妃と
牡丹よりいうう唐朔
よ花といういる牡丹
のうしうく紙朔の花と
うる八稿のうくうくれ
ば敢もかうきの辞うり
うてうのうきどれさ
るうというり 白稿よ
りきううむうう巻本は
稿きううに 孟引か
敢成者と

うう花のうりううけ
かうりうきく
花ううう花の雲とん
は行きんううやお雲
上の雲を引けうう
いんくうよれとうてす
うりや

のかりくはうるどうのうくうう
ん。ううちうてうう花のりみうるどけ
かうりけくうううううひどうこれどけ
うんうきいうきんようくあるうりうう
らどう海のかうどうのみううきのうくいと
ううううう（孟宗上と張八稿色なれて）ひうをみてびいとうう
とうてうう乗ちうりひううけうくうと（細殿）
やうよりううひうりうううりのりてう（孫）
うう海うりうりうりうりうりうくうる西御
とうくうりうりうりうりうりうくうる
て。さ月中（孟宗上と稿よりうう）
してどうりうりうるのむうううくう
ううりうりうりうりうりうりうりうれ
ううりうりけぬれけうりひううとうう結

さ月中旬。細稿八月よ
りうしうくうりうう
いううう八月うりうれう
ううりうの雪八月く
り海稿ううう八月
花八月中旬稿

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

音ふかく人よりそれらと上はとあるを物もまひびてこそ
名引ものもあるもの　浦のくせもたびらびあるひはてもひびてひ女ふとう
ゝひくむりれて
はまふうやロあゝ「ゝるゝとゝ
あやしゝゝのざえゝろ
ゝくゝろすゝるゝるゝどゝ
他のゝゝゝゝてゝゝゝゝ
ゝ　男物ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ざゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ

めへかれとあり。張さぐま
ぢとうちのあきをれよ
つけくうらハすびう
しるとうみるや

ひいそうも　細　吟之上乃
琵琶弾ハ紙に入せる
と　乗吟之上ハ酒の事ま
うねとも為てハ又
ようりう　つと

れうこ　細　前より変
して　ものうとうとうり
ぢさ自称あるとうとう
ふとと

とくのひてて　細　伯
の意　盃　それ行よ　ハ
さとくしらくはよいあ〜ぬをわざく
うりうて　おい酒の
れく　ぢを　おいれもあうう子と酒とのこと
ぢとうよ　酒くあを　行ようりうう　いあぬ
まうり　琵琶　ばん
ぬどをうり　琵琶　てを　らくま
らいうべうこまぢうぬを　さいへと　他の
ようれて　おあうまそうらうめ
けうひ　おあうまそうらうめ
まうこ　紙　院
ぢめうこうよめぢうら他のうふう
とうん　ぢ　しどそのありうりいへ
うよるう　ぢまうみうるやとをめうく
れぢう　酒の　ぢ　琵琶　ぢ
酒の　ぢ　ぢ　ぢ

さうひて　細　法の楽器

琴の事よりくだりて
諸器琴音うつ
さうふうや事にさ
ぐして細わうやうく
うるわ　細　うるわの絶
張りてうけうこそ婆羅
門僧正始渡来朝うく但
元慕天皇文武天皇を
琴を引きふうく
ちくのうしとちくぬうち
琴うるわのうしとちくぬうち遣
唐使の時波斯國みく
のうしし絲合巻よみ
ぬうくぬ雲宮をうし

文選嘯賦　成公子安絃
發徵則隆冬凝冰鬱翳則
嚴霜夏動商則秋霖
春降奏角則谷風鳴條
註　翰云熙光也徵夏音
也故冬發此声感光熙
至羽冬音也夏變此声
感嚴霜至商秋音也春
動此声則秋霖降角

春音也秋奏此声感温風鳴條也冬風則春風也皆音律至妙感應有如此著
養云列子曰師文学琴於師襄師襄曰子之琴何如師文曰請嘗試之於是
當春而叩商絃以召南呂涼風物至草木成實及秋而叩角絃以激夾鍾温風
徐迴草木發榮當夏而叩羽絃以召黃鍾霜雪交下川池暴涸及冬而叩
徵絃以激蕤賓陽光熾烈堅氷立散師襄曰雖師曠之清角鄒衍之吹律
無以加之張湛曰商金音屬秋南呂八月律角木音屬春夾鍾二月律羽
水音屬冬黃鍾十一月律徵火音屬夏蕤賓五月律鄭玄礼記注云甚蒸
也聲類云喜熙字

文選嘯賦　文選琴

ちくのうしとちくぬうち
ぬうくぬ雲宮をうし
ぬうくぬ雲宮をうし
ぬうくぬ雲宮をうし

のちこれをのく人ども
そしくらいふ琴をつけて
琴琴ゝゝゝ

も係のるぶ〜〜〜

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

わうのそらもいまは
又中くるくしく
物紫は樂をてゝうる
らんてかよゝうねまく
るゆをこゝ

てゝくゞあろ 細
うはゝろのを見
ゝうへは彩さうと

今年八卅七ゝで
細女も卅七童庭ゝ落
雲女後も卅七ゝて崩
しゝうり紛ゝてハ紫

わうのそらもいまは又中くるくしく
物紫は樂をてゝうるらんてかよゝうねまく
るゆをこゝ

わうのそらもいまは又中くるくしく
みゝうのかのひろゞゝうりうらてし
紫ゝ海もいてゝぬゝしゝをゝゞてゝるよ
ゞゝよつゞけてをゝゞうゝくゝゞうくし
ゝゝまゞゝゞゝゞゝこゝゝ人のかゝをゝ海
ゝれゞいてゝくゞゞゝゝうゝへゞゝよゝひゝう
ゝゝぬゝ海めゝもゝあゝるゝをゝゝゆゝゝゝ海
ゞゝゝゝ

細福緑

盃相盞帝四之元

細光之盃紫之

細光之三之元

[illegible]

[illegible]

[illegible]

細 伊葵

細 伊葵

細 伊葵

中宮をくしたてまつりて
ぶらりとゐひみうし
細 [illegible]
の中宮の御[illegible]
[illegible]
[illegible]

海士さよはあぬれ
島栗ふのうまとへうれ
しろかわるくらづくかく
れしろかるさよはあぬ
ぬうしに栗よしあで
さぬくよらづひ絡と

ぞうしとぬがとよいとありがさそれがそ
そいらすぐよ海ろのの行つ月と
ら人よしろうこそよそうこびいこうふと
よくとやりまるとく
もぐよんづひいしまひそれざこよら
らうれどれ君絡よみろう人いるとうもろ
細川の元の行つ月と
いとそうこそりのしろ人と海ろこて
なし絡文よいしうくひさとうまてし
ろこのぐしろこびこうえんとそゆみつこ
細川女三の所へ
ろうまひぬどれよんをく人やあしんと
を出ぐうこずいとうくいろびてひとん
よれこうよんいれくかうすいまはいと海ゆ
細川の句
細川の紙との
ふしてうしろやもうまを見うし物の御ん

ふゆうせてこそ　御酒よ
いこうろこぐさせのひて
こそうひあくあとのこ

わざこうゆこそいろこのも
雅人こと心の物後ぐど
よあうくるく

白　お日氏の出絵巻の
のこうこうこうつう日ころ
ありてぐしろやもくなりまひ
細川女三
ものこりれこもをやとくゆか
ぬ東へこしく絵巻
ぬ東いしひぬこくまひて人ぐよ物絵
こまとの
ひあつあこうこ世のこうひよい
こいろこのこ、ふこんあうひこよ、ぐこ
ひうあ、あうこうこ紙いひあつあう
お絵巻の分あるす
あやこうこうこもをぐつうあ絵うの
げよのまひつうやこよ人こうこうこ

うあよこうこうこうこそこ
ほ八こうこうこもこうこ
分あうこそ海のしの白
波の出すぐあよあうさ
とえよこそこそれなぐ
れてもうよ——

のうひつのうちより　細蔵に
第上をうめもかくさんと
のおもひつるなり
人の思ひのうち　細　其の外
八嫉妬第一の物なりと
れども
世ひねをるやうなる　先世
条世島所の見れるを
見さんされよ世人のうち
あるしまつあて出来さる
世せうそこをこそこさせんと
お原の女三の宮よりおこし
す故先ゆうさんと

世の外もあるうて
原人をれぬ程なるよ人は
あるよい外さんあるう
て世りかあるか小町集　伊勢
女世の世さうち　伊勢
女世のうち第上（世さう）
そこあれど第うちれ
ふう側うあぬうしの

しくてうんとあのしまつるよ世ゆうそて
常より原世（ア絵）　お原の常
そるうこうしゆくまつるよしひつづれく
いそうさうちまつるよいとうしげそお
つすいうるれうそそさうち　紫上の
原の常
人いい　細世七家のうち
しつてしこのもうるゆかり　細原のうち
ていとゆそうくゆかうれうるどこる
うまつうそれとはうんしもつれど
日一日そうひおつてうしげよそうり
うげうさ絵　お原八紫上の物さ
ゆうくしまひくゆさあうち絵くしう
てひびんぬいうるうんとありうさそて

世のうち女世も
紫の世物を知うつう
しうるべし
ゆうつうそうきうさうち
女世のそどうつうそて原の
世うう人第上のうるや
このうしを先ゆうさう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ありてゆくれて給ふんとうもめのまへ
よ。我ん人とやうすて給ふんはあ給ふと
ていさうようとはしうふまづくのこゝろ
れしうくへくれで昔うちうづうぞう
ぶはいしみうきとゝまりてきうぐしく
ぶがきれんうろづうきようひれつゝを
ぐふとゝさうう海ようちすてう海ちんと
やはがもとのこゝろ
第の姫をきこえ
いとしのこゝろ
えしうまふありうく出りうと海よ
ちんと出りはいつて。文のはう方みあう
らう海ようちう給うではしと大とを

細保のうつくのうと
紫のこと
細女三宮の御方

さうさ海ようちうを給
えんとや　保ゝそゝうえ
出家のあのあのあしに紫
上のさいうちうりんす
をさうさ海みとはうり
くようとゝみうをうけよ
うちうくぐりの
おおようちうりく
わうれてゝうにさ
へくくあゝくう
はうとしたもすさちうぐく
おはしの海のすうねと

細六条院へ

女三の姫ゝとゝ

うくみをおくしまさて
第上須くゝ初女院のう
く細ゝ懐姓也

さ海ぐくてゝうれひさうあうれ海のうち
ぶ人ぐいうれあうぐうう二条院よつどひ
ふうて。この院よハ大をけうちうあうそ
うで女どうかりて人ひうりのはけをひ
姫くうとゝ西。女れの方をとううひてを
保ようとゝ
しまうてゝのくけるぐいとおそうさ
をやく第ようれとうこれはうち
みもうゝてうまふうえのいうこうう
てかうまうとゝ紫上のこ
さうひてゝ紫上の須ゝ
姫うんうゝ

細六条院へ
細紫上一人ゝ
院六条院
細女三宮
細保
細女三宮

ゆゝしく　細人々の云く

ばゝ女房ども　語抄孟月

晴儀

しくしくあめぢそさりともくるうはを
しきとゝ　細たるすはあるまの
のゝ給ぢ　をんのふりうよきてうひて幸の若恵もあるとゝ
あるゝとゝて　ひろさう門いりのまはさいゝ
をそれよ　ゝのものろきとゝ　るぎひきばさんあるんゝさう
ぢきてゝ　ふりてもゆさうは
ゆゝべ　ふうとゝ　ふの色ゝうゝんゝ男と幸人よゝ
しくつひ　ゝとくれとゝうなうひゝはひさ
ふ人ゝ　ぢきゝめあるゝ　ゝるぢゝふめるゝゝるぢゝう
ど仏神　第上のゝ　ゝとゝふく　ゝるゝ
つゝる　このゝうゝだとのゝさぢゝく
ゝゝゝう　ゝ面をとあゝゝめゝ世給ゝ
ゝゝゝう　の東原

ちくゝゝゝりのやんぢゝるゝゝ偽ゝ
どゝゝゝ　ほ民のゝゝゝを等てゝゝおゝてゝ給ゝゝゝ
ゝゝゝ　ゝるゝゝゝ給ゝゝゝゝゝひゝゝゝ
しゝゝ　ゝりゝゝゝ　第上の病位
ゝゝゝ　ゝゝゝ面ゝ
づゝゝ　給ゝゝゝゝ
ゝゝゝ　ゝゝゝ　執わゝゝ池のけの面ゝゝし
ゝゝゝ　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

今の世よハいとあさましく
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

柏木ものゝ給ふんやうにきこゆるおもあるべきさまとかゝれしかどもそのことゝ
細花物語の文
花柏木の右衛門督中納言に位ぐ中納言は三位の相当なれど三位の補
実践公卿
今いうしるべきことゝ
あしかりや　作物語
思ねさまよ伯父ぎみ
さうげれどいまいうとやうにぞてのまゝ

いざこまかにとゝのつくべきものゝ
給ひをけらでやこゝらまさうのれいさん
つまあるべきまうづいとこゝいとこゝとこゝ
細小行幸の詞
るりやれとくをとりいふこゝ給なりとも
細源氏の御の会に
くるの流のこゝよいぞくわんごろに
をあべこゝ
細中納言は昇進あるこゝ
のごゝこゝずこゝりめくしくはその
細小行幸の詞
こゝりまれとゝいつゝひなゝ
仲朱とこゝてゝふこゝ
こゝりこゝるこゝはこゝよえいひて給い
細柏木の詞
でいまはすこゝこゝとはまこゝやさ
源氏二条院におはしましたる
こゝこゝりのこゝひまこゝよけこゝこゝ

言葉の端
世三ノ上ニ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
世三ノ上ニ近
付こゝんかいこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
紙ぞめ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
細小行幸の詞
れこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
の詞
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
細柏木
おとこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
いこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
のこゝ女れ后こゝこゝこゝこゝ
細世三ノ上
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
世三ノ上ニ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
は接続
こゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ

世ふるさと自他あ
しきこの世をかな
細小行法

の行へいきてしたまつりこそいとあはれまことに
いとしくそねりのみてくらねとうへいへの
うまよりくいてくいてくとひのまへとえい
ばらの行へ人。濱のおりまきあ乗いこ橋の
見ぐりうまへ
（此乳母は法人なるべし）
うまよさうべきひとうまへびさうへひまへ
いとうるかりをうはひまとうけ行ぐり
らんとうびつまりぬいまくとひに
（お柳丈の世ふるさとのれこしてぐらべ）
とあへれ
（孟小行ぐりこうり柳まへ）
つひくとうそこしとうをうぐうるこひ
みぐへいうへふうれうのひくかうへぬ

（細柳丈のうへ）
まこよわうらのうへ
こうれだけうくうりくうひうぐうる
こもまうべきこまでいこひとよ
らぐいこのまれぞのつまへうら
とこうそうしうるのゆづのおう
ぐうくりまひいぐうられまはおり
うぬとうけうくてこうまりうふこ
ことこうそうるせていひくぐうの
れは迎ふぐりやこうひおうれうやは
しこうぐそうひうる四月十五日つう
のまうりこうそうぐおうそうて妙法よう
まうまの世房十二人ぐうようらうは

節うくかくこひこ
ふう　お丈三よ丈て寒ま
ぐわんまでいお柳木の
ひうへぬこ　愚案柳
木もこうよまうよ柳
節ふこまうまでいふつど
只一こ丈よりこれふの
ふぐうふれぐうぐう
ていうりていあくこの
まうぐこまうこいこひこ
こ人おうまれまうとうう
うまうふ文柳の二会ふおそ
ぐうこうまうぐこうぐ
れは武柳木ぐくこぐぬれ
てこここれ後ふ多と
いぐうまうこうまう後ふ
まうふぐ髪とふて
世の毛ふ逆丈人の戒とまうく
こうぐこおうこて
細妙の母親ふ
こうまう孟妙ふの母
法人とうまうこうは

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

「そのうひやりハ
細くりつきかくれやう
よあるべしと思ふこと
かりよハうれうこと

ふくしきすべいなる
おもうもうもうであるべき
とハうひもうしぶし
よそひのかたちと和本
のうみこの事

いうらもくわくくし
く伺修羅之孟ぞうくし
つれていうんしく異業
二条后とうもこと

でうんとうけよ学ぶ
まとこのうひや
ひとつ
をづくぞくそうれをみよぞ
ぐうりうひ川めううこうこえ
ちうをそかくうけくしきこしなる
てやうんとうひうどいうこうけ
さううづけよハあるぞうくら
うけよやうくこのうこうをふけう
ひのあくよいうぐくぬやうこぞんる
仙さ世絵つぐりけうさうくうひうづひ
くのうくくん
うをそいづうもくみてうくしな
うくぬ絵分を世よみうさ海なりぞあく

花神木のうをうこうこ
おなじ二の絵神のうづうくぬ
細美の絵

ひはうくうくねこの
細懐姫のうえ夢獣懐
胎之相形
うみうしよすり
細美中のうくうこうと
うをんうき絵をとかを
ううくく異門花まうう
しく猫を文よをうん
ようすうくうんうこ
よ迎ぐうき寿りうう
こ何しよをりうくんと
うくハ六条院のはしう
めをそひて絵伺うと
きうみくしくあ警
のうも面白し

伺騒絵仙蒙御覧よりうまうくうひうくうこ
細美の絵
美のうくうこ
女三こ
細神木のう絵
六条院の猫の所のうこ

うくうくうくう

けはさてさあり久しうと
思しくらさうふうき
ゆ分ゐり　さ三のゆに
さゐくゐは柳木よえて歩
人妻　ゐゐくゐゐんを
をぐこは多まゐ池よ出で
ゐえあ世ゐうゆに縁みぐう
ぐぐりうさこゆ分をして
貞女のゐををこるゐ多
ゐうゐくさゆ分ぐと伴
しゐり
人のゆに源をゐ人　ゆにちか下宮
乃將軍の衣袖　輿　娘子　武源
越仙寺

みこゐくさ世人ゐもゐぐさ
さを　盃　重て多ぐく
をわるゐ多ゐらゐゐうれば
今一盃もと

つまをれこのつるびさゐうゐ久のこもま
えいでゐうゐ　さ三文のゆ分
しくらゐゐけはさゐこわりゐんゐ　ゆは
ゐゐくゐゐうゐくさゆ分ゐりゐうゐ尾よ
盃　さ三のゐよくゐ侍よりでゐ金ゐんゐく
をゆはいくゐゐはゐくゐ　細ゐゐ
ゐんゐくくていくゐるけはゐくゐふとい
柳木の尾　細ゐゐ
をけゐくゐゐれゐくゐりてんの尾
源をさんのゐ独ゐいくゐつゐけさのゐゐ
あけゆくゐ気をゐゐよゐぞんゐゐゐゐ中く
ゐゐいゐ　柳木の尾
せゐんいみゐゐくいゐゐくゐくま
ゐゐひくくゐれゐ点をゐゐをゐくいゐゐ
よゆくゐゐやゐもゐゐゐくゐゐひゐゐ
さ三のゆ分を

さくゐはふゐゐゐみゐり分を
ゐゐよさ三のゆ一言をゐ
ゐればゐくゐは報分ゐ不用
のゐのゐ身をいゐくゐ
ゐゐゐゐらんやゐゐゐゐり
いゐゐゐくゐゐゐゐ
細ゐくゐれゐくゐゐませ
ゐ命ゐゐゐくゐゐて花い
べゐくゐ伴分の花ゐさ
ゐゐゐゐくゐゐ
ゐゐれゐくゐ
ゐゐゐゐゐゐ伴ゐくゐゐ
細命をゐ伴ゐくゐれ
ゐくゐゐ命をゐゐ
んゐゐゐゐ命をゐゐ
ゐくゐ細
ゐ

ゐくゐゐゐゐれゐゐ海ゐれゐくゐゐ　柳木の尾
ゐゐくゐゐゐくゐゐゐゐ伴ゐゐれゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ

うしろめたく命を捨てても仕方容あるべきこと

をしまひのどかうしくひさかたのあまのかぐやまのもみぢ

ぐしあるよりぐあけぐれの程なるべし

月のくまなきもんのうちのあれはがうしをやをうしひさあげて

（柏木の巻）

（柏木の巻）

（柏木の巻）

但右之奇みもいとあり 細流より川をつ
そえんとするよすらーをくさめをして おなじ柳木の立ちんしてうわく 廿三もみうとうぐいす
めて花をすすめるーをこうこう 五月雨 細月
あけぐれの 細あるは物をのさまいざりしと今柳木のいまみよ 遠くそうくくく

（女三の紙と分かれ初めの頃）（女三のうつり行きの頃）（細はた上の高麗よりの）（原女三つ）（女三の心）（原の女三の）

（女三の心）（原の女三の）（細紫の上の）（原の女三の）（細柏木）（細酉の日）

（女三の心）（原の女三の）（細柏木）

（女三の心）（原の女三の）（細柏木）

（女三の心）（原の女三の）（細柏木

[illegible]

[illegible]

[illegible]

曉曲字也

何猛言五

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

つくしの海づら。夕ばの景。海とのぐひて立
出るよ。いとゆくゆくゆきさらぬよ人の
よつれば。ちんでぐきこそてちんぐひ
月花の間
まりつるぐの絵いとりて。月日
へまるとば。曉ちりくいつ絵つりつるとも
のくぜのわざよちんきろ。やうくいさらで
絵やうよ。笑ゐ。作て。今ちんれ人ちろ
ひめれど。まざいとよりけるーやいうる
しきこよてそて。海こよいうな
きまるゐ。ちんをめをすてれう。
ゐがあやーさんゐ。ちんやこのちんれいと

夕ばの景。海とのぐひて立
細 柏木の句
細 夕ばの景の句

夕ばの景。海とのぐひて立
細 柏木の句
細 夕ばの景の句

ちんこそ。細 景。ゐ。
自由ちるちんーゐ。ゐ。
ありーと間ーゐ。ゐ。
叶ぐれでこそ。ゐ。
れそ。景。ゐ。
ゐいちそて。ハとどちき

さもちそーこぬまーゐ。ゐ。
くんちめまるるめとぐぐくこれ
かれまりまるるーめて。ども
きひ重病者ゐ
ゐつるとゐ。女房ゐどいんりえ地きめてこぐ
ゐがいちくきつぐ作りけるゐ。ゐ。
えのぐめぐ。ちめてくちき行て
ちんこよちんぐくゐのーまちゐ
ぐいちそゐのまちんのちいむゐ
つぐれてちりのらちゐ。ぐ。
えゐちゐぐけそひそぐーくちゐ。
のちぐそちぐちるちちいちゐ。

涅槃経云 細行流身

一人 細行のものは悪五逆の罪人を救ふ

いひそめしあだ女の名は 細女く業障りて

涅槃経云もとけり海

一人女人為業障女人地獄

使能断仏種子外面似菩

薩内心如夜叉 涅槃経

あだ人もこころざし

彼女系の羽立日 第七日

涅のこころ羽立を見

のいひおこしてゆく

おそれ物はよ

でまてのうらもを ほのかに

いそぐ 法し行給し

くを給ふ とつくしてらくとこな

人のれけるひのきしてせりつるおやしきは

のこ海よ ろりおつくんとゆげやうよいとむ

うれば中 秋なのもし

ありいりのうくぶひりてゆけいなの名はなれ

もの

ゆるつ ふくさりとひぞうとおくてせ

ゆいとつくのみ人りさぐらしは

なのむひ物はよをこうろ出ろう

こくとひ出ろうしよ海こゆげ出ろ

よいてこづくつくゆがさろれぐ

お出上なこなりこ

のこのこ受戒の力に出ろ

命りやみりりやこそれいひこのらこ

めりいぐろ

このもこれこうこ出よ海よ

うこのこ

そひみまて

とりぐよ行んじゆて海こより

こおりて人もいとくはんまどふこよ

あうていえちげめ行りあるまざろりいり

なりもぐ

らんとのこのころ出ゆげうげくよわれぐ

しこまてれいをすこやと行り

のこのこ

ろりしこ

よりこ

ものこ

ろりこ

ものこ

ろりこ

ものこ

ろ

六月のつごもりてくれぬ　おもてしてとうろう面白くしてくれぬ六月晦日のおもてなり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible] 細川のひま
し、おなじ月頃の後のなも
あるに、先八病の陰なり
師久しく女三をえ
るるもなをに[illegible]
のれ乳母の陰まさ
女三へえ[illegible]
[illegible]
[illegible] 曉 人の
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

孟 廿三の[illegible]

を恨[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

しみがてのいでうひめれば　ひとくすてわ
れわろよ　わがしりてさのふのりれい
うよとうせまてしげさ後のけんじつ
みのうてて　ていたれしきめれば
とえてるまぐのていてき
よいてれいとりのうしいてひ
るのれうあやしきてまつづてよう
いとうをたてしたぐのまつしよて
ありがよらくうてとばうの
いつくよろのをめてうけしたて
せたしれいすてわどけあしとくた
うまひつうんとうふまくしきも

ふくまつれ　細人くの
まつしくまぐるれんば
うつしわとくく　咲かわ
ばちくこうちつまぐま
人やとぐいんとえうう
けつしとく
いうせたしりどい　細ほの
ゆかわつしいたぐ遠
あとえうりのとと
仰ほのりどまのしい

ちつれたもうればく
ぐよばみいたうせた
うんとうひしとく

いうくのうわんん　おみの
うさうこびの何ちくわう
どこみつわんをうんう
ど世ほちつ何く

まだ　いつ　細えの何
ふくとえをきあんでさうとと
まうれようつうの行よいてうえん
うまう　細かれば有
人わるいつ　細かれば
りてて　細ばれ
らづてうこ
くくやほのうれま
どうんどうこのいでまうでくうも
づくいうけるうれ　細鶴のけて
まつしう
えうせたうう
ぐうく　れのし
てうんまんしうこいたうこうくま
うまでうまんしたうこうくまうこ
おうこうまうのうこうこと
人ほうまでまうこうこと
ばれもものうひしこうう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

のうやのうやまーけよ
おかりそうんなの
盃女三よハかりてまー
ゆきてうやくうろ
きふぞし堂の浦への
詞

うしろかりてびく出仕い
二今上うり女三のほう方
へし嫁女三の方へ使のを
ろうやとらふんの文
うくしこ

おん女三
をうのうの姿乃うやまーけよかりそうんうり
くわうり給ふーこそいとめーうれとき
うしまへーじ。さうー細浦の河
うどーこうるうふらふをおえをゆでどのづ
うーんのどうよふひくるんーうらいびし
よむはつひうりううふもはめこあり
つとうう抜涙のいとあんーうーおそれうーうこうこてけ
きれいうんーもうくはーうーうーう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

くくまうこうはいうて柏木
の男をいとおしくこそ
よいうさぐき可惜身
体よ人のいまいめとも
へ

こうて男をこつこまよ
おぼりてひきうて飛
よこるひきつるすいあ
しうれとも柏木ら
ひみくきこるるべし
とんくくく男とるき
ものこすこうのの
もろうるべし
そやもりやうよ
男柏木おみも女三宮の又
えうひしうをゆうう
よあやしくいあうし
さそうしとやれしうう
細柏木のひるすやのさ
んとうてうくゆひすう
うくくこえ和の 孟夕音

まうんさうしてうこうて分のめさ
ぐうんも人めあやしくおれいうもれ
ぐあくそんこのいこぐさみとやそら
もてよこうらもいとうやまうくてう
内裏へもこ
うんもこそこどそうてよりこつこよいあこ
るべきこ
けそうひうこ法はぬわうぐやまげい
六条院の鞠の時のこと
のこすのこぐ海もさうぐこえこいう
がうしとえ和のこひまつる氣とこきう
三月廿日
るといまぐこひあうすうこあてけこ

の鞠の時五位の氣色
あうこうとを柏木のこひ合
もうこ 三夕猫の付色
つうせうるあう
ここうこてもわうう
御女三宮といえやこうるげ
こあしこれども女三宮あ
まうえやこうこうこうの辺
の人こうこ女人
細めつうこうみもこう
るべきこうこうこ
こ墨染小侍従をこ
ぐうとトよこめてこえ
るこうこ
このこうこのこうこうこも
お三 懐姫のこうこう
私兵えここ女三宮の内男の
このこうこ
歌とつけてこうこう
よ和女三宮の内あの心
若ここをこうこう
こうこひこうこうこうよ
孟原の女三とこひこうこう
てもこあやこくよ

孟女三宮
三世界の五法
孟女三宮
孟柏木のこと
孟女三宮
源氏の君
孟柏木のこと

こここ海こうこうこ
こうよ海こうこ
こうこ
こひこうこ海こうこ
こうこ海こうこ
こうこ
こうこここここ
こうこここここ
ここここここ
ここここここ
ここここここ
ここここここ
ここここここ
ここここここ
ここここここ
ここここここ
ここここここ
ここここここ
ここここここ
ここここここ
ここここここ
ここここここ
ここここここ
ここここここ
ここここここ
ここここここ
ここここここ
ここここここ
ここここここ
ここここここ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

みくさんのそいぬみも
あるべきなり
盃をぐしたる源氏のん
をうけしるしおれ
ども後よりそうそうたる
しるべ

ちうりうきゝ中をりられ
細 鼓琴とは鼓琴とのこと
つまみきゝ中をれば鼓琴
のんしうけ見ふたみさ
もそれ見ものとてえうけ
きしに八のゆうさあ事

どうどくさらうりてうれを見か
ぐさはやゆうこうどみくさんのそ
ゆみをあるべきなりをるべきにつ
きるくりてをてをぐこのゆうぐのうう
きんみもげぐやうよりてうるれうう面
をんみもうそれうこうよゆうされ
して行されてうう金行
うう金行よりるりて
いううぐずなりみるぐいまうんいうよう
どあううなりうりうりうりうりうさなうう
うりうれいるぐうりうりてうりうんうこと
ううてうをゆうぐうこあうまう地

みのゆんうりうもうもうう
三 女三のゆうう勝月和
のんうつうもうぐう
さううしかうひうう
まうう

うう。んうりてうりうこうくも。世人もうひうう
公うし人のうえんうう
盃のうう中とうう
いうう。
細 勝月和
しいう。こうの
盃女三のう
細 勝月和
勝月のうとうひうう
うう。んうのうう
ううのれんううう
細 勝月和
うるうんうひうう
おほのすーやひうう
くれんうぐうう
細 盃尼のうを
うまうるんうう
うう紙あうう

あまのゝもを　細川尼より

なりもてゆくをもとゝそに
はゝそぎさく我分をも
まのゝうらひもそゝろ
なるれどゝり　盃日
又盃を海の事もゝろ
かるれバひとりよ出家
世人ぞゝ物をとゝ　墨梅勝
月夜ゆへよ源さなさを
ゝしも雅すゝぞ我よ
くあれをゝんみを
ゝれアゝぎゝ地をゝの
ゝゝ尼よりまゝをゝ
くゝをひうゝめゝこゝゝ
ゝく学ゝ　細　学窟の作
山ゝゝりの附ゝくゝひゝ立
給ゝ事ゝゝ源のゝ海さ
げ給ゝるゝぞし
菅ゝゝ　細　四人ゝゝゝ
まゝゝ沢ゝゝの紫ゝ
ゝゝ

源

あまの世をゝゝよゝゝゝゝゝゝゝ　お源ゝゝ勝
よゝゝゝゝゝゝゝ

みくしとわろ三ゑくしとゝ一切ゑせよあ
わりありうつくしふんあれぐ
勝の勝者のことばいづくみてもくこゝろ
ゝえめゝこと 細今とゝめられぬ 嗟 公家しゝろゝ
孟原の筆へ

ゝろゝめられゝ
細山寺のゝゝ 孟ゆゝ乃
面よゝゝゝせゝとあゝハ
我をゝづゝめゝゝゝを
思案ゝゝハ善ゝゝゝ
ゝもゆゝいとあゝゆ
ゝや
ゝゝくゝよゝゝて 孟ゆゝ
けゝもゝゝゝてゆゝゝ
ゝゝ人よハ勝と權とゝれ
ゝせをゝゝひゝゝてゆゝま
せゝゝゝ

孟原の筆へ

ゝゝ
づゝめゝゝれゝゝ
細ゆゝゝゝよゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

月にうくかりくくて
おもふ方法の女三の宮
しるべ中を朱雀の帝に
て櫻姫のすみ給ふも
世不定なるの事なり
こゝろくこの姫ひめ
姫君上の姫の何ふ
れなる丸給て女三の宮
しるべも朱雀の女
ぐ姫りくせ給ひて
ふくの何ふいふ
まくて櫻姫の姫よを
ゆくくしきとは
推量し

とゝひめし給つゝ
のれくくとくきこゆ
給しもゆきくるゝ
くれぬいるるよ
中もまさ
のくれぐ
ひまくこ
ぐりしそ
うんかそ
ゆくくれ
盃
くあり
いとぐ

細流の女三
朱雀院の八の御せし
盃

うくるぐのこゝろ
姫君
姫君
姫君

こゝろのこゝろ
しるべ
せるれど
姫君
三朱雀の
月のすぐ
のつゝ
びもぐ
るぐ
びくれ

三朱雀の
姫君
姫君
姫君

[illegible]
源のおりゝまさくんをぐい
三 元い朱雀院の御時世の
つゐに報よりてぐひをとる
朱雀院のゆゝしいうしひて
源よ殺けりする女三し
されいやゝゝあるべゝと世ぐ
しめやゝゝ
この世ゝとゝそゝうやゝあ
つゝくんさぐすぐ八
盃 朱雀のさぐめとる
るゝれぐゝうゝちゝ
をとゝもあるぐりをひそ
と源の報し
ゝゝくるぐゝ八ゝて
御報よりひゝぐすぐと
もゝあて源をおぐゝ八
みもゆゝやゝゝ
いゝくゝみゝゝめ給そ あゝち
おゝのゝゝのゝふゝゝ密通
のゝれ根をのゝゝ
あゝれよゝゝゝゝと

朱雀の
朱雀院
女三まのし
細 紙は通ゝのゝくゝゝゝ
細 勝月殿 陸奥
源氏いろゝよゝゝよゝゝ
盃 朱のゝ御おゝ家のゝ
細 女三とゝゝゝゝゝ
三 源の男性の報
盃 ゝゝ
盃 朱のゝ
盃 朱のゝ
源氏を

盃 朱雀のゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

の字無姫よりそれり

しもつ月のすえつかた　細殿姫のれいぜいこのれいぜいこまもるこ

朱雀の

はちすの花をたんとそひ行れど　孟　そよ清

あるときこのよわ

さのみのべ　おなじ世　源の義例

げ　それをおきらるよりてすまてこ

のいろ　ゆもやをまつるつくひ　などいと

らこ　三こ　ら　源の面白

なるよ　ふ　物　と

みて　源の

つの　源の

きこ

とゆ

ぬ

しんぶもとと　殺人をとるるもやと　はげ　人

されつ　やうくつ　今の物語の六条院　源の物語

もとあるす　紫の人　例

どる　第二女三宮

ら　孟　夕霧の

ある　細　孟　物語の

きこ　細　物語の

みて　ぬ　ん

細

ていこ

ひ　孟　朱の

千　細　朱の

こ　孟　六条院の

ら　源の

しも　物語の

やう　月　彼女の

やう　物語の

つ　物語

源よ　物語

細　物語

市　物語

と　物語

不審　物語

しら　物語

朱雀の

はちすの花をたんとそひ行れど　孟　そよ清

あるときこのよわ

さのみのべ　おなじ世　源の義例

げ　それをおきらるよりてすまてこ

のいろ　ゆもやをまつるつくひ　などいと

らこ　三こ　ら　源の面白

なるよ　ふ　物　と

みて　源の

つの　源の

きこ

とゆ

ぬ

しんぶもとと　殺人をとるるもやと　はげ　人

されつ　やうくつ　今の物語の六条院　源の物語

もとあるす　紫の人　例

どる　第二女三宮

ら　孟　夕霧の

ある　細　孟　物語の

きこ　細　物語の

みて　ぬ　ん

細

ていこ

ひ　孟　朱の

千　細　朱の

こ　孟　六条院の

ら　源の

しも　物語の

やう　月　彼女の

やう　物語の

つ　物語

源よ　物語

細　物語

市　物語

と　物語

不審　物語

しら　物語

[illegible]

[illegible]

[illegible]

例もわるうて　細　平生
とりうるようどうなる
人とれば一の方ばかり
とく

みとうのみとうとうれたとうて
おもよりすべてもうて
ぬ人和とく女三のうれ
ぬのうまのかげ　細　五月雨の
やまいやうるとき　細　平生の
和うるとく　細　花の
のうも　細　五月雨
よそつとゆうとうれれと

上達アり　切掛ふるまつりし　晩　浮氏と　細平とつぬよ浮中　ふうしこ
うう例のけうのうさうすのうちよいれて
お浮ハ蔦平　ふそ　ーらひうつ　りやのうすはうておりーます　げよいと
いうやとくよあをて例もわうう
ようやうさいはうとの　お　行掛の　ふくーう
よいりてうれくいとうらいるらいよ
づめうさ風そこしなるといとで　お　ぬ　ふうう　ふの　人の
月をとをうへ　ふうひうふ　風　ふとうみうちの　ぬう
とうしよさうすくうんよさうよとう
ふまづふとうしめう風のうれむく
いとうひやうるきこそいとつとゆうーう
とうれるどれめとまれどうげすくい

とうしつうまうまうて
義清平氏宗薩　浮　細
の加うりのよ氏　浮　浮
よハ寺　令　強　ゆ
ゆハ浮うとうの氏
うう　細　浮　浮
てまーまて加よいう
おいもれハ精進ハ義
ハ長行と思ううの

とうのしーくそのうとくるくて　細　浮の　お　ふ　ーう　ふ　ふ　て　浮　西　ふ　ひと
ぎをのうとうあうひうろのいとまるき　細　老の　浮　五月雨
よ浮のれ愛のうあうよ拙ーう　ふ　ふ　ふ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

今は源中納言の作なり
皇麞章　陵王　落蹈　太平樂　喜春樂　みな
舞楽の名なり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人をうけよまめこころかしこくて　孟侍の梅木をえすみ貝をえらく梅木のそこをうく
ちかへてやどくこの梅のみこ

して　まこと　よ　ら　ら　ものしてるやまとことばれば
いつ　ど　こ　こ　と　ま　ま　ま　ぬ　こ　ら　を　る
人　を　と　ど　こ　ま　と　ま　ま　ま　ぬ　こ　ら　を　る
の　絵　こ　ら　ま　れ　の　や　こ　る　れ　ど　い　ど　む　ま　つ　ど
れ　こ　ま　る　月　の　め　ど　ら　ら　も　う　ら　ら　つ　く　お
ど　ま　れ　ば　白　ど　ら　ら　て　ま　ど　こ　つ　を　を
ま　る　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　で　て　の　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
つ　く　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　で　絵　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

つ　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

[illegible]

[illegible]

[illegible]

四君の句というぐくの母よりこえんとおもうなそこ
孟一の弟もしまとこ
孟三えまおりてもろもろあるを根まこと
孟梅本のこと
細梅本嫡子こと
細家集えんかうこと

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大臣於六十寺修諷誦永延二年三月十四日法興院大入道六十賀公家今月修
諷誦於六十寺　今案所修の諷誦と年齢の数と相合ふ所多
也平の所修ありしかども平もしてばかり絶ありしと
かつ〳〵ものしたるなり　細仁和寺ものしたり　或仁和寺の四堂本尊金剛界大日なり
平寺の法誦経別所八又仁和寺の密堂にて摩訶毘盧遮那の字誦経あ
りしかく　仏摩訶毘盧遮那佛とかきるみつから大日なるなり　大日経の題号なり大
毘盧遮那神変加持経とかく　細此諸語古来さまざまの説あり　法師よく
えさうの不載之　或之後漢書逸民傳韓康傳公是韓伯休那とかける那の
字同名とかく不経は物語にて資端と結句とをもてよくよくかきつけ造
ものしたればかく　結句はかくのごとくしかあるべ
よしかく作るなり　物語風をもて抜萃のものなりもかくのごとく